

# 今そして未来

県環境アドバイザーからの提言

化学物質は、私たちが暮らしを豊かにし、多くの利便性をもたらしているが、一部の化学物質の中には、外部に排出され、環境汚染を引き起こすものもある。

水俣病やカネミ油症事件などの公害問題、地球規模の環境問題であるオゾン層の破壊、地球温暖化、酸性雨など。また、身近な問題としてダイオキシン、環境ホルモン、シックハウス症候群などは化学物質に起因している。

## 正しい理解へ啓発活動

環境汚染への対応としては、行政・企業による取り組みに加え、新たに化学物質排出把握管理促進法(PREPR法)が一九九九年に制定され、企業からの化学物質の排出状況を知ることができるようになった。

しかし、化学物質を正しく理解することは大変で、その有害性や環境汚染に関し不安を持っている人も多い。暮らしの中の問題で



地域環境学習会の学習風景

も、環境ホルモンでは「食器にプラスチック容器を使用しているが心配だ」「電子レンジの加熱にラップファイルをしようにしても大丈夫か」などの質問を受ける。

スプレー缶は、スプレー剤にLPガスを使用しているため、火気の近くでの使用によって燃えたり、爆発する危険がある。中身が残ったまま廃棄すると、処理中に火災、爆発の恐れもある。

このような日常生活での事故を防ぎ、化学物質を正しく理解し、使用してもらうために、環境アドバイザーとして地球環境学習などいろいろな機会をとらえ、啓発活動を行っている。関心のある人は是非参加していただきたい。

【やまぐち・まきお】  
安中市梁瀬。県環境アドバイザー連絡協議会副代表。環境省環境カウンセラー

## 暮らしの中の化学物質



外部への排出も、商品としてのほか、製造する過程や副成物、廃棄物などいろいろある。

ホルムアルデヒドやキシレンが原因で発生す

(山口 牧夫)

